



未来を希望で、いっぱい。

わたしたちは、三菱商事復興支援財団を設立し、さまざまな活動に取り組んでいます。
小さな希望のピースを、パズルに作り上げていく。それがわたしたち三菱商事の願いです。

総合商社の、つぎへ **三菱商事**



日本企業として、いち早くシェールガス開発に参画したのは住友商事。2009年にテキサス州バーネットのシェールガス権益を獲得した。当時、米国で上流資源開発の積極展開を進めていた中、探鉱のリスクがなく、将来性も高いことから投資を決定した。その後、10年に米国子会社を通じてベンシルベニア州マセラスのシェールガス開発。12年にアナタルコからベンシル

G調達先確保という点でも注目度が高い。商社の中では、LNGの今後の対日輸出解禁を見込んでシェールガスの液化、輸出に取り組み動きも広がっている。
三井物産やアナタルコなどが共同開発するシェールガス開発現場(アナタルコ提供)

周辺事業の拡大も期待 LNG調達など多様化

LNGの生産分野に乗り出すのは三菱商事と三井物産。両社および日本郵船は13年5月、米センブラ・エンジニアリングアナナ州で計画するLNG生産事業に参画することで合意した。センブラ会社で液化事業を手がけるヤマロンLNG(C LNG)に対して、三菱商事と日本郵船との合弁会社、三井物産がそれぞれ16.6%を出資する。CLNGはルイジアナ州で年産1200万トンのLNG生産事業を計画しており、総事業費は最大約1兆円となる見通し。13年度中に最終投資決定する予定。三菱商事、三井物産合わせて800万トンを販売する計画で、日本のLNG需要の約1割にあたる。日本企業自らLNG製造事業まで踏み込むことで、日本やアジアのLNG供給ソースや価格指標の多様化につなげる方針だ。

低コストで大量生産可能

大手商社も北米でシェールガス、シェールオイルの開発プロジェクトに乗り出している。世界的なエネルギー需要の拡大を追い風に、低コストで大量生産が可能なエネルギー資源としての収益貢献が期待できる。また、世界最大のLNG輸入国である日本にとって安定調達という点で大きな意味があるだけに、シェールガス由来のLNG輸出をにらんだ取り組みも進んでいる。

いったん、開発・生産に付随する事業も出てくる。(三井物産の林哲郎エネルギー第一本部石油・ガス資源開発部北米室長)など、周辺事業の拡大にも期待が高まる。
米国のシェールガス革命は、日本の新たなL

住商は米国子会社を通じて12年12月に、米国LNGプロジェクト会社のドミニオン年間約230万トンの天然ガス液化加工契約を締結した。メリーランド州に液化設備を建設し、17年に稼働開始する予定。住商は契約分の内140万トンを東京ガスの子会社向けに供給するほか、残りの分についても販売先を決定している。

資源開発の最前線

北米からシェールガス輸入へ

新興国の経済成長によりグローバルで資源の争奪戦が激化している。中でも日本では福島第一原子力発電所事故に端を発し、火力発電所の出力増強で必要性が増した液化天然ガス(LNG)をいかに確保するかが注目される。重責を担うガス事業者や商社などでは、将来にわたる安定供給実現に道筋をつけるための挑戦が始まっている。

安定供給実現に道筋

米国からいよいよシェールガス由来のLNGが輸出許可。これで2017年の中にも出荷が始まる。大阪ガスと中部電力が参画するコーポレートLNGプロジェクトへの認可も、調達コストの大幅な低減につながる。現

硬直的な価格構造打破へ

エネルギー企業の挑戦

ケットが完全に分かれてしまっている。(大手都市ガスメーカー首脳)たまた、話はその単純な構造ではない。17年の時点でも米国内でのガス価格の安い水準のままだという保証はない。実際、過去には日本の輸入価格の方が安かった時期もある。むしろ、日本勢の狙いは別のところにある。そもそも、東日本大震災の影響で日本向けのLNG価格が急上昇。他方で、米国ではシェールガス革命により、天然ガス価格が歴史的な安値に張り付いている。日米で価格のベクトルが逆を向く事態が起きているのだ。それは、北米と欧州、東アジアの天然ガスのマ

大手商社も開発参入

このため、日本企業は第三者に転売できず、これが価格を硬直的にする要因ともなっている。だが、フリーポットからは大方と中部電力が自由に仕向け地を決定し、商取引を行うことになると。東方も同様の構想を持つ。そこでは、世界のマーケットの状況に合わせた柔軟な取引が可能となり、3分割されているガスのマーケットの一体化が進む。(同)こ

JAPEX

安全で安心なエネルギーの
供給に取り組んでいます。

石油資源開発株式会社
www.japex.co.jp
新潟・仙台間ガスバイパス(延長261km)

国際石油開発帝石株式会社
INPEX CORPORATION

Energy for a Bright Future
明るい未来を拓くエネルギー

私たちは、日本を代表する多様なエネルギーを供給する企業として、世界各地で70を超える石油・天然ガスの探鉱・開発プロジェクトに従事しています。
これからも積極的な国際展開により石油・天然ガスの安定的な供給にたゆまぬ努力を続け次世代に向けて豊かな明日を拓くために一層の貢献を図ってまいります。

国際石油開発帝石株式会社
〒107-6332 東京都港区南麻布5-3-1 麻布Bizタワー
Tel: 03-5572-0200 Fax: 03-5572-0205 URL: http://www.inpex.co.jp/
INPEX 検索